

高校生 国際協力 アイデアコンテスト

学校名	愛知県立常滑高等学校		授業者氏名	沖 祐美帆
対象学年 (人数)	高校生 3 年生 (29 名)		実践年月 (時数)	2023 年 9 月～10 月 (6 時間)
担当教科等	地理歴史 (世界史)・公民			
単元名 (活動名)	「第 3 章 世界各地の生活・文化 (第 4 節 南アジア)」			
実践する 教科・領域	地理 A			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 () / 多文化共生 (○) B グローバル社会 … 相互依存 (○) / 情報化 () C 地球的課題 … 人 権 () / 環 境 (○) / 平 和 (○) / 開 発 (○) D 未来への選択 … 歴史認識 (○) / 市民意識 (○) / 社会参加 (○)			
単元目標	・南アジアの地理的特徴について知る ・発展途上国や日本の課題について考える ・高校生が実践できる国際協力について考える			
単元の 評価規準	知識および技能	・南アジアの地理的特徴を理解する		
	思考力、判断力、 表現力等	・発展途上国や日本の課題について考える		
	学びに向かう力、 人間性等	・高校生ができる国際協力について考える		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	・本授業を行ったクラスの生徒は、理型の習熟クラスであり、何事にも積極的かつまじめに取り組むことができる。本授業においても、「ポスター用の模造紙を加工してよいか」という質問が出てくるなど、創造性豊かに意欲的に取り組むことのできる生徒たちである。 ・本単元では、学習項目として、南アジアの自然環境と生活、歴史と宗教、語族・民族、農業・工業、経済発展と今後の課題、これからの南アジアと日本を扱った。 ・南アジアの国々については地図帳等の地図を用いて場所を確認したり、写真や動画を用いて生徒が興味を持てるように工夫した。			

[単元計画（全 6 時間）]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	南アジアの地理的特徴について知る	「南アジアの地理的特徴について知る」 ・教師海外研修でネパールに訪問した際に撮影した写真や動画を用いてのクイズ大会 ・南アジアの自然環境と生活、歴史と宗教、語族・民族、農業・工業、経済発展と今後の課題、これからの南アジアと日本について学ぶ	・ネパールで撮影した写真・動画（食・スイーツ・街並み・村・人・ネパールの語学学校での日本語授業の様子） ・ワークシート ・教科書 ・地図帳
2	発展途上国や日本の課題について考える	「途上国の課題について考える」 ・途上国の課題を個人で書きだす ・グループごとに課題を共有する ・グループごとに作成した課題を回し読みし、新たな視点をみつける ・「課題解決のためにどのような支援の例があるか？」について考える	・カラーペン ・教科書 ・地図帳
3～5	発展途上国や日本の課題について考える	・ポスターを作成する ・模造紙にカラーペンを利用してポスターを作成する ・ポスター項目として、タイトル・解決したい課題・高校生ができること・なぜ解決しなくてはいけないのかを設定した ・日本とのつながりを明示することを留意事項とした	・模造紙 ・カラーペン ・教科書 ・地図帳 ・タブレット ・スマートフォン
6 本時	発展途上国や日本の課題を踏まえ、高校生ができる国際協力について考える	・4 人または 5 人グループで、1 班につき 5 分以内で発表する ・発表の形式は自由だが、要点をまとめることを留意事項とした ・すべての班の発表終了後、1 人 3 票ずつ投票を行った ・投票における評価は、ポスター部門・発表部門・総合部門にわけて行った	・模造紙 ・カラーペン

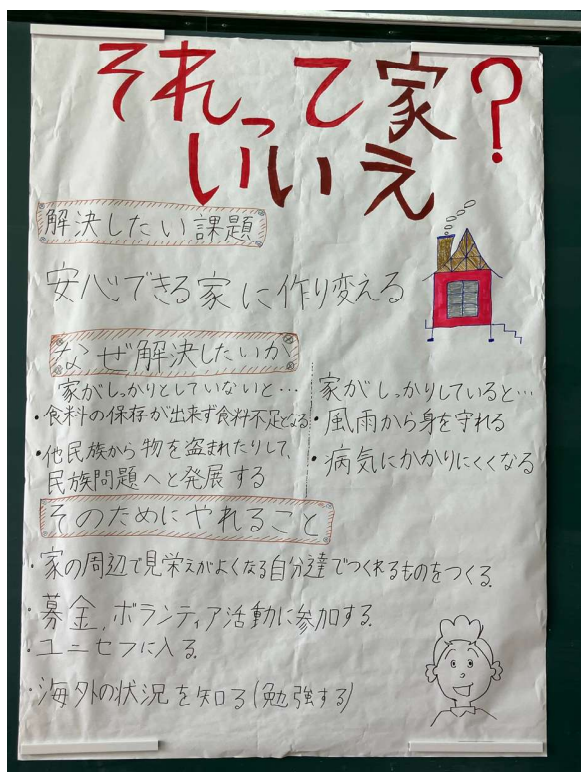
[本時の展開（6時間目）]

ねらい	・発展途上国や日本の課題を踏まえ、高校生ができる国際協力について考える		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
5 分	【導入】 「ルール説明、諸連絡」 ・司会の生徒が本時の目的、ねらい、ルール説明、注意点、発表順の説明を行う 「教員の働きかけ」 ・発表したり、意見の言いやすい環境づくりを行う	・事前に司会をやりたい生徒を決定し、説明してほしい最低限の内容を提示する ・事前に生徒とともに、本授業の概要を黒板に板書する ・生徒主体となるように板書や司会進行を生徒に任せる	
35 分	【展開】 「ポスター発表」 ・7つの班がそれぞれ発表する(4人または5人グループ) ・1班につき5分以内で発表する (発表終了後のコメントシート記入も含めて5分) 「教員の働きかけ」 ・発表時間を設定したタイマーを生徒に貸し出す ・コメントシートがなくなった生徒にコメントシートを補充する	・ポスターの形式は自由とする ・要点をまとめることを事前に複数回助言する ・発表を聞く生徒はメモを取りながら聞くように助言する	
10 分	【まとめ】 「投票」 ・すべての班の発表終了後、1人3票ずつ投票を行う ・投票における評価のポイントは、ポスター部門・発表部門・総合部門の3種類に分ける ・投票時間は3分、集計1分で行う ・3分経過したタイミングで、残り1分のアナウンスを代表の生徒におこなわせる 「教員の働きかけ」 ・投票時間が残り1分になった際、代表生徒にその旨を伝達する 「総括」 ・感想の記入をする 「教員の働きかけ」 本日のまとめとこれまでの活動の講評を行う	・発表の形式は自由とする ・投票時間の管理を行う ・参加型、生徒主体を重視し、教員が全体に声掛けするのは最後の「総括」のみにする ・全体の進行を生徒に任せる	
評価規準に基づく 本時の評価		・南アジアの地理的特徴を踏まえたうえで、発展途上国の課題を日本と関連させながら考えることができた ・高校生ができる国際協力について考えることができた	

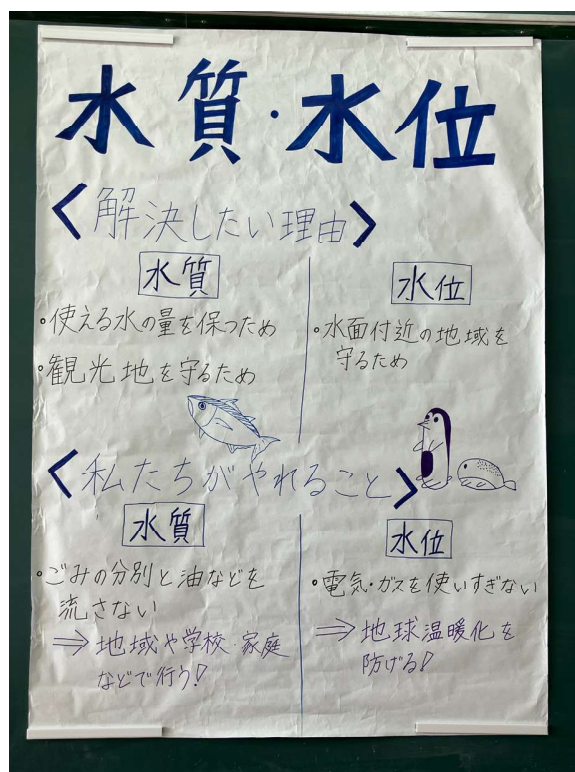
〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	・単元実施の際、生徒の意欲を高める目的と、学校内の教員に国際理解教育を広めるために、研究授業として多くの教員に授業見学をしていただいた。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	・愛知県高等学校国際教育研究協議会(AKK)で講師をつとめた。 ・ESS 部での途上国の課題について考える取り組みを行った。 ・高校 3 年生の総合的な探究の時間に英語以外の外国語を学ぶことの意義について生徒に考えさせる活動を行った。
苦労した点	・班ごとに扱うテーマが異なり、ポスター制作を行った 3 時間分の授業は、常に個別対応が必要だった。 ・班によってポスターの制作速度が異なり、間に合わなかった班は授業後に居残りをするなどしてポスターを完成させたため、授業外での対応も必要だった。
改善点	・ポスター発表の際、生徒がポスターを手で持って掲示する方法をとったが、ポスターを持ち替えたりする手間があったので、発表する際は掲示すべきだった。 ・ポスターを作製した後、掲示する場所がなく、ポスターの活用は授業内で終了してしまった。授業終了後も文化祭などで掲示できたらよりよかった。
成果が出た点	・派生図を用いることで、より深い理解につながったり、多様な意見がでた。 ・コンテスト方式にすることで、グループごとに様々な工夫を凝らした作品にすることができた。 ・地理的な特徴と現代の課題を結び付けて考え、これからの社会のあり方を様々な視点から考えることができた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	・「誰も考えたことがないような観点から(途上国と日本の)課題について考えて、それを(ポスター発表として)うまくまとめられたので良かった」 ・「あらためて途上国の問題について考えてみて、色々な課題があるなあと思った。今回学んだことを意識しながら生活していきたいと思った」 ・「世界中の課題について多面的な角度からみんなの視点で課題をおさらいできたのが楽しかった」 ・「(様々な課題について)考える時間があり、とてもいい時間になって楽しかった」
授業者による自由記述	・生徒から「楽しかった」という意見が聞けたことが最もよかったことだと思う。国際理解教育や異文化理解などは、外国語科がメインだと考えられがちだが、地理歴史科や公民科でも取り扱う価値は十分にあるのでないか。また、途上国の課題について考えることは、自国の課題について考えることにもつながり、地理歴史科や公民科においては、科目の学習において、大いに役立つと考えられる。 ・また、ネパールでのごみ問題に着目し、生徒へ話したところ、一部の生徒が校内の畑に捨てたままになっていたビニールごみなどの清掃活動を行うという効果があった。
単元構想・実施における参考資料等	・教科書『基本地理A』(二宮書店) ・地図帳『高等地図帳』(二宮書店) ・『環境学習実践者向けESDガイドブック ESDはじめての一步』(名古屋市)

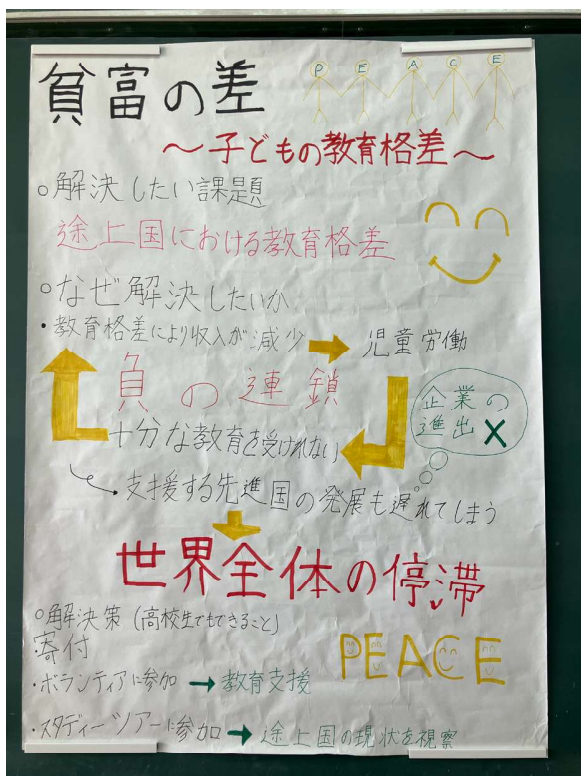
[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



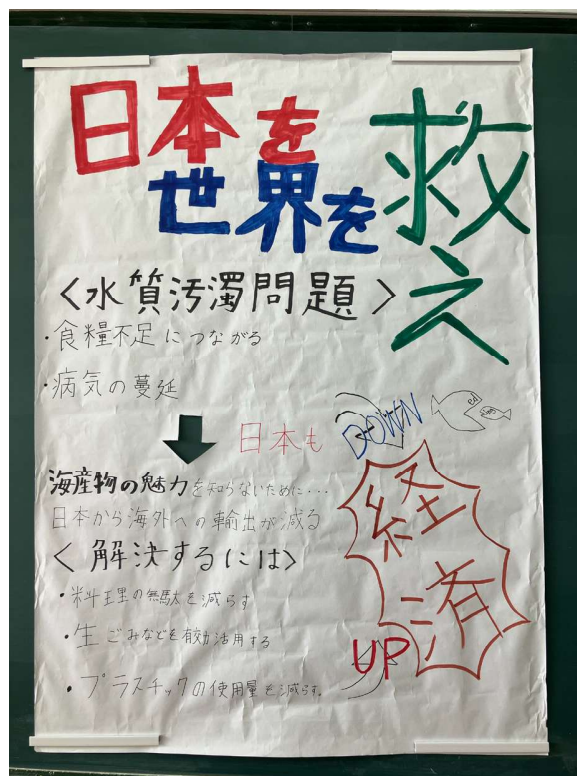
▲ 制作したポスター1



▲ 制作したポスター2



▲ 制作したポスター3



▲ 制作したポスター4